

公衆衛生の観点から摂食障害予防とその教育について学ぶ アメリカ、ボストン

2024年3月17日～2024年3月22日
吉川桜子、公共健康科学専修、3年

海外研修をしようと思った動機

日本において摂食障害は、治療について語られることがあるものの予防に関する研究や政策は不十分である。そこでハーバード公衆衛生大学院の摂食障害予防のための研究組織の方にお話を伺い、日本での摂食障害の予防や予防のための研究及び研究組織について考える参考にしたいと思った。またアメリカと日本とで当該疾患のハイリスク層である高校生のボディイメージや健康への意識のあり方にどのような違いがあるのか知りたいと思い、海外研修に行こうと考えた。

海外研修をどのように企画したか

泉先生のご協力を得ながら企画した。
研究機関としてハーバード大学 T.H. Chan 公衆衛生大学院の STRIPED(Strategic Training Initiative for the Prevention of Eating Disorders)にインタビューに伺いたいと考えていたことから、当機関と、ハーバード大学公衆衛生大学院の位置するボストン市内の高等学校に決め、同じボストン市内でのフィールドワークを通して街や人々の様子を観察することにした。

旅程

日付	移動と訪問場所	活動内容
3月17日	東京・成田空港出発	
3月18日	ボストン空港着 フィールドワーク	街の薬局の見学、衣服等の広告・人々の様子の観察
3月19日	ハーバード大学 SPH STRIPED	Austin教授らと対談。 その後STRIPEDのミーティングに参加
3月20日	フィールドワーク	大学生を中心とする人々の様子の観察・街でのフィットネスのあり方の調査
3月21日	Snowden International School	現地の高校のスクールナースやソーシャルワーカーとの対談
3月22日	ボストン空港出発	

訪問先や面談者の紹介

○CVS, Walgreens-ドラッグストアチェーン店

○Primark-大規模衣料品店

○Harvard STRIPED(Strategic Training Initiative for the Prevention of Eating Disorders)-ハーバード大学公衆衛生大学院にある、青少年を中心とする人々の摂食障害予防に公衆衛生の力を活用する専門家養成のための学際的なトレーニングイニシアチブ

- Professor Bryn Austin-Harvard STRIPEDの創設メンバーで所長。
- Chloe Gao-ブリティッシュコロンビア大学のMD博士課程学生。2023・2024年度のSTRIPEDの客員研究員
- Ariel Beccia, MS, PhD-STRIPEDのポスドク研究員。
- Professor Jerel Calzo -社会疫学に関するポスドク研究員で発達心理学者。サンディエゴ州立大学公衆衛生大学院健康促進・行動科学部門准教授。

○Snowden International School-ボストン市内の高校
・Emily Lawenberg, 週2日勤務しているスクールナース。

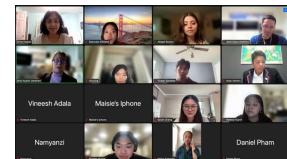
・Velma Glover-常駐のスクールナース。

・Rosslyn DesRuisseaux-スクールソーシャルワーカー。

・Noemy Vides-スクールソーシャルワーカー。

それぞれの訪問・面談で学んだこと

訪問したドラッグストアにはいずれの店舗でもサプリメントや薬のコーナーが充実しており、必ず瘦身薬も販売してあった。米国では国民医療保険制度が設けられていないためセルフメディケーションへの意識が高く、これによってドラッグストアでも多様な効能のサプリメント・薬や健康食品等が棚に並んでいると思われる。



対談ではSTRIPEDの発足や参加してくださった方々の研究テーマについて伺った。STRIPEDは摂食障害に関する一つのプロジェクトで集まったメンバー数名から始まり、徐々に大きくなつた。今では高校生も巻き込み、実績もある大きな組織となつた。活動内容やトレーニングの概要、ポリシーをウェブサイトでオープンにしており、世界各国の研究者とも活発に交流することで、より早いスピードで摂食障害の予防に関する研究が進められるそう。



訪問した高校では摂食障害や体型に関する問題は特に深刻ではないようだった。その理由として、この高校には多種多様な人種の生徒が在籍しているため、そもそも骨格や体つきが一人一人全く異なっており、画一化されたひとつの理想系に縛られることなく個性を尊重する雰囲気があるからではないか、とのことだった。スタッフの皆さんはそれぞれに生徒との交流を通して信頼関係を築きし相談しやすい環境づくりに努めていた。



研修全体を通して学んだこと

研究機関、高校の保健室・相談室や街中での商品の売られ方・広告のされ方など、あらゆる方面から摂食障害やボディイメージの歪みへの対策が可能なのではないかと考えた。また多様性が体型への意識に良い影響を与えているかもしれないを知り大変興味深かった。日本においてもできることは多くありそうである。

感想

大変充実した研修でした。
出発前は一人で海外研修に行くことが恐ろしく緊張でいっぱいでしたが、それを上回る学びがあったように思います。



反省点

想像以上にアポイントメールに返信が来ず焦ったため、訪問先や面談者の候補を多めに挙げておけばよかった。
特にSTRIPEDメンバーの皆さんとの面談では、あまりの緊張で英語が出てこなくなったことがあった。あらかじめそれを念頭に置き、言いたい内容や英語のフレーズを十分にメモしておいた方が円滑なコミュニケーションを図れたと思う。



後輩へのメッセージ

サポートもしっかり受けることができ、きっと有意義な研修になるのでぜひ挑戦してみていただきたいです。